

渥美幸雄先生のご退職にあたって

関根 純
経営学部教授

2023年3月末日、渥美幸雄先生が定年退職されます。未だバリバリの現役であり、引き続き教鞭をとられることに何ら支障はないと思われませんが、大学の規定のため教壇を去られることには寂しさを感じざるをえません。ここに渥美先生との思い出を述べ、贈る言葉にしたいと思います。

渥美先生と本学の校舎にて初めてお話をさせていただいたのは、私が企業から入職する準備を整えていた2010年の春のことです。当時も今も変わらず、情報処理を担当している経営学部の専任教員は渥美先生を含め7名で、その方々で、授業のやり方等、いろいろな情報やノウハウを教えてくださいただただだけでなく、夜は懇親会でざっくばらんな話をさせていただきました。それが非常にありがたかったことを記憶しています。その後も頻繁に、渥美先生には私の方から質問をさせていただきました。それは、渥美先生が、企業に長くおられてから転職された情報系の先生の中では一番責任が新しく、企業と大学の違いなどに戸惑う私にとって、なくてはならない存在だったからです。ゼミとは何ですか、ゼミで何を教えたらいいですが、教授会はどうなっているのですか、こんな学生がいるのですがどう対処したらいいですかなど、私にとっては重要な事柄でも、一般の先生方から見れば随分些細で当たり前なことを何度も何度も質問していた気がします。そのような質問に対しても、いやがることなく、非常に丁寧に相談に乗っていただきました。ただ質問に対して答えるだけでなく、悩みに寄り添っていただいたこと、改めて感謝申し上げる次第です。

ちなみに、渥美先生と私は、40年近く前の若い頃、横須賀にある同じNTT研究所の一員として在籍していたことがあります。しかし、渥美先生は通信の専門家、私はデータベースの専門家ということで、名前と顔はわかっている、仕事でもプライベートでも話をさせていただいたことは一度もありませんでした。それが数十年を経て、このようなお付き合いをさせていただいたこと、不思議な気持ちです。

さて、渥美先生を含め1年生の情報処理の授業を担当されている先生方は、兼任の先生も含めて半年に一度、授業を行った結果の課題や対策、授業改善のためのノウハウについて共有する会合を設けています。またそこでは、使用している教科書の改善案についても議論をし、とりまとめています。そういった際には渥美先生は必ず、全体を俯瞰した上で物事を整理して論理的に話をされ、

現実的な方向でまとまるよう導いてくださいます。また、私を含め他の先生が特定の視点に拘って議論していると、まったく違うこういう視点もあるのだけれどもと仰って、皆の視野を広げる役割を果たしてください。我々にとっては、円滑に会合を運営するための貴重な人材だと言えます。

このことは、渥美先生が情報科学研究所長をされていた4年間にも当てはまります。当時の私は会計担当ということで渥美先生を補佐する立場にありましたが、研究所のイベントをどのように開催すべきかなどいくつもの懸案事項がありました。そういった局面でも、全体を見た上で、こうやったらどうでしょうかとさりげなく示唆をいただけるのが渥美先生でした。どちらにしようかと迷っている時に、最後の一步を踏み出させていただけの方でありました。このようなことから、渥美先生は、研究所だけではなく、本学にとって方向付けをしていく上での貴重な人材であったと言えるかと思えます。

ところで、渥美先生、渡辺展男先生ら数名で、少しずつメンバーが替わりながらも時々やる催しがありました。それは、生田緑地の日本民家園にあるそば処「白川郷」に、お昼時お蕎麦を食べに行くという些細なものです。春であれば桜を鑑賞しながら、夏は住宅街より多少涼しい風を感じながら、そして秋は紅葉狩りをしながらなど、生田緑地の急坂を下っていくのは、いい空気を吸って気分を一新する、短いけれども極めて贅沢な時間でした。そして店では、一般のお客さんに混じって、あまり教育や研究の話をするでもなく、開け放たれた障子から外の自然を眺めつつ雑談をすることが楽しみでした。このような貴重な時間がもうあまりもてないかもしれないと思う一方、渥美先生が退職されたからといって催しをできない訳ではありません。退職後も是非お誘いしたいですし、その際にはまた素晴らしい時間を共有できればと考えております。

最後に、大学の教員としての生活、そして企業人としての生活、長い間ご苦労さまでした。次の人生を有意義に、そしてご健康でお過ごしいただけるようお祈り申し上げ、挨拶の言葉とさせていただきます。